

明石公園内の
旧市立図書館

利活用計画の素案は示されたが..

「居場所、交流、多目的施設」の新設に、議会はポカーン？

明石公園内にある旧・市立図書館の利活用を検討していた明石市は、6月19日開かれた市議会総務常任委員会に「旧市立図書館跡地 利活用計画」(素案)を報告しました。

素案は解体の可否についての検討はなく、解体を前提とした跡地活用計画になっています。中身は右表の通りです。また、財源については、国交省の「都市構造再編集中支援事業」による国庫補助や交付税措置のある地方債を活用し、市の実質負担は8億円以内に抑えるとしています。

2回のWSやWEBアンケートで「あったらいい」と思う施設を聞いた結果に基づく案と説明したのに対し、議員からは「必要な施設ならつくればいいが“あったらいいな”というものを造る財政状況か」「市が県立公園に寄与するものを造るのか」「解体して県に返すのも一つの選択肢だ」という意見が相次いだ。

市の思惑通り進むかどうかは不明？

補助事業に詳しい職員OBが分析すると

この補助事業は「立地適正化計画に基づき、都市機能の向上に資する公共公益施設の誘導・整備に対し集中的な支援を行い、各都市が持続可能で強靱な都市構造へ再編することを目的とする」もので、既存の都市再生整備計画に記載されていることが要件になっている。こうした条件に市が考えているコンセプトが合致するかどうか難しいだけでなく、ほかにもいくつかのハードルがある。しかも市が挙げている「2025年度着工」のスケジュールに乗せることは極めて難しい。来年度の事業予算計上へ向けて、すんなり進められるかどうかは極めて疑問だ。県立図書館と一体的に建築された既存建物を耐震補強改修して活用する案が、あらためて浮上せざるを得ないかもしれない。この案だと4億円程度の費用で、5000㎡近い旧図書館の施設を多様に活用できるからだ。

旧図書館跡地利活用計画 (素案 6.19)

【コンセプト】

いつでもみんなをやさしく包む居場所

【主な機能】

- ①心地よく過ごせる居場所
- ②自由に集まり交流できる機能
- ③明石公園での諸活動を支援する多目的機能

【施設配置イメージ】建物を500㎡と1500㎡の2案、残ったスペースを屋外空間とする

【事業費】解体工事費8億円を含めて14.5億円と21億円の概算2案を提示

トークサロン・草の根の市民自治

市民自治あかし総会 9月8日(日)

13:30~16:30

アスパア明石8階・市民活動センター

丸谷市政が発足してからこの1年余の明石市の市政とまちづくりを振り返り、検証・総括する市民自治あかしの2024年度総会は7月末の予定を先送りしていましたが、9月8日(日)に開催することが決まりました。

総会は例年通り「トークサロン・草の根の市民自治」と題して広く一般の方々にも呼びかけて、誰でも参加できる討論集会として開催します。

この総会は政策提言市民団体として発足以来12回目の総会になります。

市民自治あかしは昨年春の市長交代にあたって「市民自治の明石市政は第2ステージに入る」とその意義と期待を表明しましたが、この1年余の新市政はそうした期待に比べてどう評価できるのか？ 6月23日には第45回市民まちづくり講座で「丸谷市政の1年を検証」する議論も重ねて、総括案のとりまとめ作業を進めています。

事前申込は不要。直接会場にお越し下さい。

回	日 時	テーマと内容	会 場
	8月講座は休み	9月以降の計画は後日お知らせします	

大久保北部市有地の利活用で2つの調査結果

第2 神明道路明石SAへのスマートIC設置&北部市有地の利活用

明石市は6月19日、懸案の大久保北部開発に関わる「第2神明道路明石サービスエリアへのスマートインタチェンジ(IC)」設置の可否を調べる基礎調査と「北部丘陵地の市有地等の利活用」可能性調査結果を市議会総務常任委員会に報告した。

いずれも、前市長時代に市議会の一部から強く要請が出ていた「北部市有地の開発」要請に対して、2022年8月からコンサル会社に委託調査していたもので、2年越しの懸案。この日は報告書本編は公表されず、A3判各1枚にまとめた概要版だけだった。

スマートICの可能性

スマートICはSAなどを利用して地元の住民等の便宜を図るETCカード専用の簡易インタ。北部丘陵地の開発を求める議員から設置要望が出ているが、明石SAのすぐ西には大久保ICがあることから実現可能性は難しいと見られていた。

調査結果はSA北側の石ヶ谷公園南端部に設置する案で、交通量推計や道路接続、整備費用等を検討し課題を列挙している。整備費用は概算約14億円、うち市の実質負担は約3億円という。

開発に否定的な調査に開発派議員は反発

もう一つの北部市有地利活用の可能性は第2神明道路以南の石ヶ谷、松陰新田の3か所に関する調査。3つの区域について①現在の里山環境を極力残す自然保全活用案 ②産業施設の誘導による産業振興案 ③両案の折衷案—の3つの案の可能性を検討し、概算事業費の収支を算出している。

①案は約6000万円の支出で可能だが、②案は造成等に約18億円を要し売却収入を差し引いても

14億円余の持ち出しになる。また、折衷型の③案は8.5億円の持ち出しになり、開発メリットよりもリスクの方が大きいとしている。

この報告に対しては、開発推進派の議員からは「造成地の売却収入を過少に見積り、税収効果などを考慮していない。自然公園は金ヶ崎や明石公園などがすでにあり、これ以上は不要」と今後の議論にしていくことが表明された。

自治基本条例の第2次市民検証 内部検証結果を先行公表しパブコメ中

自治基本条例の第2次市民検証について、明石市は5月27日に市役所の内部検証報告書(素案)を公表し、6月25日までパブコメを公募している。また、6月15日に市民検証会議の公募委員の

募集を始めた(7/15締切)。2015年の第一次検証の際は内部検証結果は市民検証会議に報告され、同会議で議論し答申書をまとめてからパブコメされたが、今回は内部検証を先行させた。

